高校生のいじめ被害経験時における援助に関する研究 (1)

いじめ被害経験時の周囲のサポートとの関連

○齊藤 英俊¹・西村 洋一²

(北陸学院大学¹・聖学院大学²)

キーワード：高校生、いじめの影響、ソーシャルサポート

Studies on Social Support for Japanese High School Students Suffering from Bullying (1): In Relation to Support at the time of Bullying Experience

Saito Hidetoshi¹ and Youichi Nishimura²

(Hokurikugakuin University¹, Seigakuin University²)

Key Words: high school students, effects of bullying experience, social support

【問題】

いじめ被害経験とPTSDとの関連が指摘されていること(細澤, 2004)やいじめ被害経験者は抑うつ・不安や怒り、無気力といったストレス症状が高いことが示されており(岡安・高山, 2000)、いじめ被害経験は、いじめ被害者の心身にマイナスの影響を与える経験といえる。そのため、いじめ被害時の対応の検討は重要な課題である。

いじめ被害経験時の対応の1つに、いじめ被害時の周囲のサポートがある。いじめ被害経験時とソーシャルサポートとの関連では、親や友人からサポートを受けている人ほど、いじめの影響が少ないことが言われている(Rigby, 2000)。また、いじめ被害時に仲間、友人のソーシャルサポートがある被害者は不安や抑うつ感が低いことが明らかにされており(Holt et al., 2007)、いじめ被害時のソーシャルサポートは、いじめ被害者の心身に影響を与えると考えられる。

一方で、いじめ被害経験と周囲のサポートに関する知見は、主にいじめ被害経験時の一般的なソーシャルサポートとの関連の検討であり、いじめ被害経験時に合わせた周囲のサポートとの関連についてはほとんど検討されていない。

そこで、本研究では、いじめ被害時における周囲のサポートといじめ被害経験の影響との関連性を検討する。

【方法】

- 調査対象：インターネット調査会社のモニターを対象に調査を実施した。スクリーニング調査により、2018年度内の高校生活において、いじめ経験が「ある」と回答した高校生男女を対象に本調査に回答を求めた。回答が得られた206名(男子52名、女子154名)のうち、回答内容に疑問のある回答者を分析から外した上で、高校にスクールカウンセラーがいるという回答が得られた高校生131名(男性36名：女性95名、平均年齢：16.82歳)を対象とした。
- 調査時期：2019年3月に実施した。
- 調査内容：①多面的いじめの影響尺度(齊藤ら, 2012)：「多面的いじめの影響尺度」の42項目のうち24項目を使用した。「情緒的不適応」、「他者への気配り」、「他者への過剰な気づかい」、「攻撃性」の4因子から構成されている。②「いじめ経験におけるサポート尺度」：過去にいじめ被害経験がある青年期の年代を対象にいじめ被害経験時に役立った周囲のサポートで回答を得られたものから、代表的な内容を抽出したものをもとに作成。「家族」、「先生」、「友だち」、「スクールカウンセラー(SC)」の4つのサポートについて6項目から構成されている。

【結果】

いじめの影響別の重回帰分析結果

いじめ経験における4つのサポートがいじめ被害経験の影響にどのように与えているかを検討するためにいじめの影響

の下位尺度別に重回帰分析を行った(Table1)。

情緒的不適応では、家族のサポート、スクールカウンセラーのサポート、友達のサポートにおいて標準偏回帰係数が有意であった。他者への気配りでは、どのサポートも標準偏回帰係数は有意ではなかった。他者への過剰な気づかいでは、スクールカウンセラーのサポートにおいて標準偏回帰係数が有意であった。攻撃性では、家族のサポートにおいて標準偏回帰係数が有意であった。

【考察】

いじめ被害経験時の周囲のサポートとして、精神的健康の維持に効果があったものは友だちからのサポートであった。これは、一般的なソーシャルサポート尺度での先行研究においても同様の結果が得られており(Holt et al., 2007)、高校生においていじめ被害経験時に友だちのサポートがあることは、精神的な健康の予防につながるが考えられる。家族のサポートは、情緒的不適応を高める結果であった。高校生という親からの自立といった発達課題をもつ時期の年代においては、家族のサポートは、家族に頼らざるを得ないといった心理的葛藤を生じさせ、そのことが情緒的不安定さを高める可能性がある。一方で、家族のサポートは、攻撃性を高める結果でもあった。攻撃性の側面の中には、アサーティブな側面が入っており、家族のサポートによって勇気づけられ、アサーティブな行動を取られるようになった可能性がある。家族のサポートは、いじめ経験のネガティブな影響とポジティブな影響の両方に関連していることが考えられる。スクールカウンセラーのサポートは、情緒的不適応や他者への過剰な気づかいを高める結果となった。スクールカウンセラーといった日々接点がある人ではない人からのサポートは、いじめ被害者にとって、心理的な混乱を生じたり、他者により気をつかうことにつながるのかもしれない。

今後の課題として、サポートに対する評価が、サポートの効果と関連性があることが言われていることもあり(本田・新井, 2008)、サポートに対する評価を含めた検討が必要であると考えられる。

Table1 いじめの影響別の重回帰分析

	不適応	思いやり	気づかい	攻撃性
説明変数				
家族サポート	.22*	.18+	.18+	.31**
先生サポート	-.03	.18+	-.04	-.11
友だちサポート	-.23*	-.07	-.05	.18+
SCサポート	.21*	-.04	.22*	-.03
R^2	.11**	.08*	.09*	.11**

** p < .01, * p < .05, + p < .10